

「大風呂敷」 挿絵原画展

昭和39年8月～昭和40年9月まで、毎日新聞に連載された杉森久英の「大風呂敷」の挿絵（洋画家宮永岳彦の原画）展。令和3年12月17日（金）～令和4年3月13日（日）まで。当館収蔵に至った経緯が、また、「物語」です。

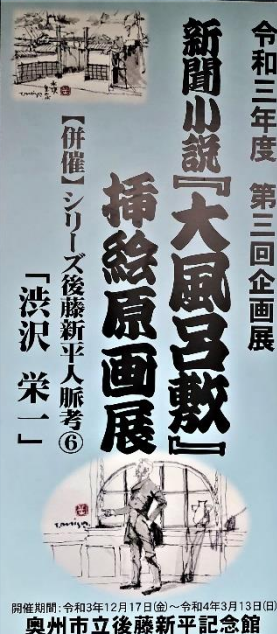
【椎名家資料收藏経緯】

「椎名裁定」で名を馳せた椎名悦三郎は、後藤家の本家筋の出ですが、後藤新平の姉初勢の養子となったため、新平とは叔父さんと甥っ子の関係になりました。

椎名悦三郎の後継者となり国会議員となった椎名素夫事務所関係者から、椎名家資料寄贈のお話をいただき、資料搬出を行ったのが平成29年8月。椎名家の老朽化に伴う家屋解体のため、関係資料の搬出をしたのが、同年12月。大まかな資料の分類ができたところで、急ぎ開催したのが、令和元年9月の「椎名家資料調査シンポジウム」です。



「大風呂敷」の挿絵原画が発見されたのは、椎名家の家屋解体に伴う資料搬出の際です。階段がきしみ、床がたわむ中、足を踏み外さないよう慎重に資料の確認をしていたところ、小部屋の散乱した資料の中に、紙芝居でも入れるような箱が見つかりました。その中に、12枚の原画が入っていたのです。なぜ、椎名家がこの原画を持っていたのかは不明でした。



椎名悦三郎写真集より(椎名悦三郎追悼録刊行会発行)

れたことで、田中首相が退陣を表明。その後の次期総裁選出は難航を極めていた。候補として大平正芳大蔵大臣や福田赳夫前大蔵大臣が注目されていたが、当時自民党の副総裁だった椎名悦三郎が、次期総裁に三木武夫を指名した。(⇒椎名裁定) 同年12月5日早朝、三木は「裁定」への御礼のため椎名邸を訪問、副総裁の留任を要請した。その時御礼の品として持参したのが、小説『太閤呂敷』の挿絵の原画であった。」

何とあの「椎名裁定」を下した椎名悦三郎へ、三木総理からの感謝のお土産だったのです。その後の歴代総理の中心にどっかりと座る写真が残されています。副総裁椎名悦三郎の面目躍如たるものがあります。

【権名家の原画入手経緯】

椎名家資料調査シンポジウムに向け、各種資料の精査をしていた当市学芸員が、偶然その経緯がわかる資料を発見しました。椎名悦三郎追悼録刊行会が発刊した「記録椎名悦三郎＜下巻＞」に次のような記載が認められたのです。

「昭和49(1974)年、参議院選挙で自民党が敗北したことや、田中角栄首相の金脈問題がスキャンダルさ

【作者：杉森久英】

明治45年石川県生まれ。東京帝大卒業後、埼玉県で教員となる。教員退職後、中央公論社入社。戦後、河出書房に入り「文藝」の編集に従事。「天才と狂人の間」で直木賞、「能登」で平林たい子文学賞、「近衛文麿」で毎日出版文化賞受賞。

【挿絵：宮永岳彦】

大正8年静岡県生まれ。名古屋市立工芸学校入学。兵役後、松坂屋百貨店銀座店宣伝部勤務。秦野市名古木のアトリエで創作活動。昭和17年二科展入選。昭和47年二紀会理事。昭和54年日本芸術院賞受賞、昭和61年二紀会理事長。



〈形成逆轉(六)〉

予審判事西川漸を怒らせたことは、後藤新平にとって不幸であった。ともかく相手は権力者である。彼は制裁の手段を持っていた。・・・

<官界へ(一)>

明治十六年一月二十五日、
内務省御用掛を拝命して・・

